



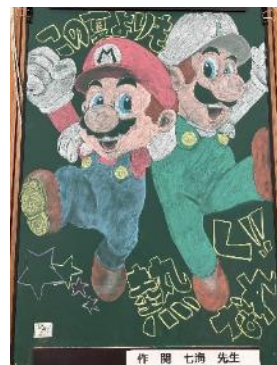
時習 2024 No.10

嬉野市立嬉野小学校
学校だより
文責 中野 宗利
令和6年10月31日

◎第78回運動会 子どもたちに達成感!!

27日(日)秋晴の最良の日に運動会を実施することができました。今回は、子どもたちからの希望をできるだけ実現させようということで取り組んできました。いずみ子ども会からは「つなひき」の希望があがり、色別対抗戦を行いました。結果は接戦を制した白組が2勝1敗で勝利しました。また、5・6年生は、6年生の希望で「フラッグ」を実施することになり、6年生が振り付けや5年生の指導まで自分たちだけでやり遂げました。当日の「フラッグ」「ソーラン」は見事で、やり遂げた達成感を感じたようでした。また、1・2年生は笑顔一杯で可愛いダンスを、3・4年生は、本物の面浮立を見て学んだことを基に勢いのある「面浮立」を披露してくれました。

応援フェスティバルでは、福田れんせいさん率いる赤組と諸上かんだいさん率いる白組が自分たちで作り上げた応援を披露してくれました。結果は赤組勝利で終わりました。そして、総合優勝は白組が勝ち取り、両者に達成感がありました。



よいしょ! よいしょ!

★10月20日(日)に実施したPTA親子除草作業では、たくさんの保護者、児童に来ていただきありがとうございました。特に側溝がきれいになり助かりました。感謝申し上げます。

◎温泉について学んだよ！

10月29日（火）に2年生は、観光協会の山口さんを温泉博士としてお招きし、嬉野温泉の歴史や泉質、日本でトップクラスの温泉であることなどについて学びました。日本三大美肌の湯！

実際の入浴体験は、11月8日（水）の予定です。子どもたちはすごく楽しみにしています。



◎お芋がたくさんとれたよ！

10月30日（水）に、1年生は学校農園で育てた芋を収穫しました。地域コミュニティのお芋先生の指導の基、たくさんの大きい芋を掘り出してくれました。そして、取れた芋をふかしてもらって味わいました。お芋先生、芋さしから収穫までありがとうございました。



◎佐賀新聞「わかもの」の欄に掲載されました！

新たに3人の意見文が佐賀新聞に掲載されました。掲載されたのは、5年生前田悠太さん、小野原諒さん、原田愛理さんです。自分の考えをしっかりと持っていていいなと思います。

将来は日本代表

嬉野小5年 前田 悠太

わかもの

ぼくはサッカーをしています。だから、パリオリンピックで、

では、サッカー男子の試合を応援していました。予選のイスラエル戦で、細谷選手がゴールを決めて勝利しました。次の日の新聞に細谷選手の記事があったので読みました。

細谷選手は、中学時代は飛びぬけた選手ではなく、試合にも出られなかったそうです。しかし、「試合に出られなかった期間も大事な時間だった」と言っています。それを読んだ時、すごいなあと思いました。試合に出ている上手な選手の手技術を、ぬすんでやろうという気持ちで試合を見ていたんだと思います。

ぼくも、上手な人の技術をまねて、その技を自分のものにしたいです。そして、今よりもっとまくなりたいです。これからの練習も、チームのためになるようにとの思いで練習を積み重ねていきたいです。そして、将来は外国でプレーして、日本代表として活躍したいです。

【2024年10月24日付の佐賀新聞】

岡選手に学ぶ

嬉野小5年 小野原 諒

わかもの

パリオリンピックで体操男子の岡慎之助選手が、種目別の鉄棒で金メダル。団体、個人総合と合わせて三つの金メダルを獲得しました。

決して、運だけでは金メダルは取れないと思います。岡選手は誰よりも努力をしたに違いありません。その結果が、今回のオリンピックに表れたのだと思います。金メダルを一つ取るだけでも大変なのに、1大会で3個も取って「三冠」を達成したなんて、本当に素晴らしいことです。

体操は、演技中の姿勢や技のむずかしさで得点が変わってきます。わずかなミスでメダルの色が変わります。着地の一歩まで集中してやりとげた岡選手に、オリンピックの神様がプレゼントをあげたのかもしれない。

ぼくは小さいころからスイミングに通っています。いろんな泳ぎができるようになって、大会にも出場しています。今回の岡選手の演技を見て、最後の1秒、最後の一かきまであきらめずに集中して泳ごうと思います。オリンピックが大切なことを教えてくれました。

【2024年10月25日付の佐賀新聞】

努力の意味

嬉野小5年 原田 愛理

わかもの

パリパラリンピック期間中、競泳の鈴木孝幸選手の活躍を伝える記事を読みました。

鈴木選手は先天性四肢欠損症という病気の競泳選手です。パラリンピックでは、4大会連続でメダルを獲得している競泳界のレジェンドです。

鈴木選手は50歳平泳ぎで優勝しましたが、連覇を目指した100歳自由形では、銀メダルに終わりました。その後のインタビューで「連覇をのがしてしまっただけ、今のベストは尽くしました」と言っていて笑っていました。すごい人だなと思いました。

左肩のいたみで、東京大会後はタイムが大幅に落ちた時もあつたけど、フォームを調整して練習や努力を重ねてきました。そして、今大会に向けてピークを合わせたこともすごいと思いました。こんながんばりがあつたからこそ、連覇をのがしてしまっても、晴れやかな表情で「満足している」と言えたんだと思います。努力することとは、結果以上にその後の自分のためになることを学びました。

【2024年10月27日付の佐賀新聞】